

古河電工産業電線

アルミ電線など製造の平塚工場

古河電工産業電線（本社・東京都荒川区、社長・小塚崇光氏）は古河電工子会社の電線メーカー。アルミ製建設用電線や太陽光発電向け電線、配電盤内など用いるケーブルなどを手掛けている。平塚工場（神奈川県平塚市）は同社の主力製造拠点の一つで、アルミ製建設用電線の技能訓練センターや製造工程などを有する。優れた施工性で電気工事現場の負担軽減に貢献するアルミ製建設用電線技術の今に現場から迫る。

（古瀬 唯）

工場。アル

平塚工場は古河電工平塚事業所に立地している。同じ地区に同社やさまざまなグループ企業が工場を構えており、電線だけでなく電線を収納する管路材「エフレックス」や電気絶縁用の「エフコ

テープ」など電気工事に必要となる多彩な商材の製造現場を一括して見ることが出来る。

古河電工産業電線が平塚工場で生産する「らくらくアルミケーブル」は優れた施工性が強み。電

導体構造や、配電盤などMの形に落とし込んで提出している電線の技術を生かした独自の柔軟な（高橋孝太営業部担当部長）絶縁樹脂材料を採用。現行品を遥かに超える曲げやすさを実現している。加えて高度な施工品質を保持するため接続部材の端ミ線を使いながらも、細線を多数束ねた特殊な線を加えて高強度な施工品質を確保している。さらに接続部材の酸化被膜を安定・効率的に除去する工具や、圧着・

施工品質確保へ技能訓練実施

生産体制強化、納期対応力向上



「らくらくアルミケーブル」の施工作業性を体感できるコーナー④と接続作業中のアルミ製建設用ケーブル

ユーザーである電気工事業者に対して施工を指導。接続作業手順について講習を開き、筆記・実技の双方で試験を実施している。修了者には証書を交付。講習は2年前から開始しており、高橋部長は「現在までに約130人が修了証を受けている」と話す。センターでは施工講習など使用に向けた指導に加えて、顧客の求める先に出張する出前講座も持っている。またセンターにはケーブル製造用電線がより一般

接続手順などの講習を行う技能訓練センター



的な存在として大勢が施工可能な普及段階に入る。「従来の銅電線と同じく即納が求められる注文となるため、短いリードタイムでの生産が重要になる」（生産本部長の中里見直道専務）として生